英国　アバリストウィス大学コース

【実施期間】：2019 年 8 月 9 日～2019 年 9 月 9 日（32 日間）
【参加学生】：6 名

【教育研究活動の内容】：

アバリストウィス大学コースの参加学生は、12 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、75 時間の教室内授業を受けた上、60 時間にも及ぶ豊富な課外活動に参加した（一部自由参加）。

事前研修では、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。また、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日にプレスメントテストが実施され、参加学生はその時の英語レベルによってクラス分けされ、自分のレベルにマッチした言語教育を受けた。教室内授業は、基本的に月曜から金曜日の午前中に行われ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能を中心に英語の基礎力を鍛える形で実施された。このコースの最も大きな特徴は、学生が自信を持って英語を話せるよう、授業中に会話を練習する機会を最大限に与え、学生に「話させる」ことが徹底されているところである。

課外活動は、基本的には平日の午後及び土曜日に実施された。スポーツ交流や国際交流食事会、市内見学等、内容が多岐にわたり、様々な体験を通じて参加学生が現地の生活や文化を楽しく知ることができた。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：

１）日本の言語教育は、学生が先生の板書や言ったことを必死にノートに書き写すことが多いが、英国では、先生が学生の積極的な発言を求め、先生と生徒とのコミュニテーションや、グループワークによる発表が多かった。また、教室内を動き回りクラスメイトとコミュニケーションを取ったり大学の外に出て町に買い物に行ったりして学ぶアクティブラーニングを積極的に取り入れている。

２）日本では先生のことを「**先生」と呼ぶが、英国では先生を名前で呼ぶことができ、親近感が高まった。

３）英国では自分の意思をはっきり伝える自己主張が大事である。

４）英国では、知らない人でも目が合うと微笑んでくれたり、重い荷物を運んでくれたりして、日本ではあまり見られない優しさを感じた。

５）日本と比べると、英国ではおおざっぱなところが多い。

２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

１）「きれいな（＝正しい)」英文で話すことよりも、英語でコミュニテーションすることが大事であることが分かった。時間をかけてきれいな文を 1 回 2 回話すよりも、文法が間違っても堂々と 10 回話したほうが英語力の上達に繋がる。

２）アクティブラーニングで体を動かすことにより、英語の学習がより印象に残り、とても覚えやすくなった。

３）1 か月間で英語が完璧に習得できたとは言えないが、相手の言っていることはわかるようなり、英語能力が向上した。

４）日本と違う文化や人に触れることで視野が広がり、考え方も変わった。また、自分の不足点を見つけることができた。

５）海外留学に興味を持つことができたので、また挑戦してみたくなった。

６）研修を通じて培った英語力を継続して伸ばしていきたい。

ニュージーランド　ユニテック工科大学コース

【実施期間】：2019 年 8 月 9 日～2019 年 9 月 8 日（31 日間）
【参加学生】：3 名

【教育研究活動の内容】：

ユニテック工科大学コースの参加学生は、12 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、80 時間の教室内授業を受けた上、第 2 週の週末には、2 泊 3 日 27 時間の文化研修旅行に参加した。

事前研修では、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。また、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日にプレスメントテストが実施され、参加学生はその時の英語レベルによってクラス分けされ、自分のレベルにマッチした言語教育を受けた。教室内授業は、ディスカッションを中心に行なわれ、学生は素早く質問を読み取り、自分の意見を考えて相手に伝える形で英語力が鍛えられた。

課外活動は、ニュージーランドの先住民であるモオリ族と深くかかわりがあり、深い歴史的建造物でも知られたトロルア地域で 2 泊 3 日の文化研修旅行を行った。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

<u>１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：</u>

１）ニュージーランドでは、バス停で待っても手を上げないと乗せてもらえない。また、バス内のアナウンスがなく、外の風景を見ないと乗り過ごしてしまう。ドライヤーを持っている家庭が少なく、冬でも髪の毛を自然乾燥させる。

２）ニュージーランドではフレンドリーで気さくで暖かい人が多い。

３）生活習慣や家族の時間の過ごし方に日本にないものを感じた。ゆっくりとした時間の流れの中にも小さな出来事を作り、一日一日に思い出が残ることを大切にするところを、日本に取り入れたい。

４）外国人の方は、積極的に発言したり、わからないことがあればすぐに聞く等して物怖じしていない。

<u>２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：</u>

１）外国人として異国に滞在したことにより、外国人にとって何が不安になるのか、困難であるかを理解することができた。この理解を、日本での外国人への心配りに活かしたい。

カナダ　リジャイナ大学コース

【実施期間】：2019 年 8 月 9 日～2019 年 9 月 1 日（24 日間）
【参加学生】：2 名

【教育研究活動の内容】：

リジャイナ大学コースの参加学生は、12 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、76 時間の教室内授業及び 27 時間の課外活動に参加した。

事前研修では、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。また、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日にプレスメントテストが実施され、参加学生はその時の英語レベルによってクラス分けされ、自分のレベルにマッチした言語教育を受けた。教室内授業は、基本月曜から金曜日の午後 3：30 まで開講した。テキストを使っての文法説明等もあるが、ゲーム、プレゼンテーションを中心に進められた。また、現地学生との座談会が週一回実施され、参加者は現地の若者と意見交換ができた同時に、「英語を使って交流する」能力が鍛えられた。

課外活動は、農場や博物館の見学等を中心に実施された。

【教育研究活動の成果】：**――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理**

１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：

１）同じコースには他国の留学生もいる。活動参加の際、日本人学生は全員集合時間前にいるのに、その国の学生は集合時間の三十分後に集まり終わる。時間のとらえ方は国によって異なることが分かった。また、授業中にお菓子を食べたり席を立って携帯電話の充電に行ったり電話の通知音を全開にしたりして、自由な人が多い。さらに、日本人は自然的に男女が別グループになって行動したが、その国の留学生は男女関係なく活動に参加した。

２）食生活に関してはカナダはジャンクフードが多い。また、お皿もコップもサイズが大きいため量が多い。

２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

１）研修に参加して英語を話せるようになりたい気持ちがより強くなった。

２）人とのつながりの大切さや考え方の違い等、多くのことを学んだ。

韓国　大邱大学校コース

【実施期間】：2020 年 2 月 2 日～2020 年 2 月 22 日（20 日間）
【参加学生】：9 名

【教育研究活動の内容】：

大邱大学校コースの参加学生は、他のコースより 6 時間も多い 18 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、60 時間の教室内授業及び 22 時間の課外活動に参加した。

事前研修では、韓国文化に憧れ研修参加を決めたものの、韓国語の学習経験が乏しい学生が多数いたため、集中講座で韓国語の基礎教育をしっかり行った。また、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。さらに、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日にプレスメントテストが実施され、参加学生はその時の韓国語レベルによってクラス分けされ、自分のレベルにマッチした言語教育を受けた。毎日午前中の教室内授業は、会話、発声練習が多く組まれ、1 人 1 人の参加意欲を高める形で進めた。課外活動は、韓国文化体験や現場学習等が企画され、韓国語だけでなく文化や歴史についても十分に学ぶことができた。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：

1）もともと韓国は上下関係等はっきりしている国だというのは知っていたが、敬語の使用には、自分より目上の人に対して話す際には目下の人と話すときに比べて 1 人称等何もかも違ったのに驚いた。そして何より驚いたのは両親にも敬語で話さなければならないという事だった。また、兵役前後の両親の呼び名も変わる等目上の人に対する敬意の違いを感じた。さらに、上下関係がとても厳しいためか公共機関を利用している際に、明らかに自分より年上だと分かる人に対して席を譲っているイメージがあった。

2）日本では、運転手が丁寧なアナウンスをしながらゆっくりと運転しているのが当たり前だが、韓国では真逆といっていいほどの荒さだった。乗客がまだ席に座ってもいないのにも関わらず発進したり、急発進、急ブレーキは当たり前のように、運転がとても荒く、バスの後部座席に座った際はまるでジェットコースターに乗っているような気分になった。

3）韓国では、授業中に絶対に静かにしていないといけない、携帯は所持してはいけない、飲食禁止という日本のマナーとは違いすべてにおいて少し軽いなと感じた。これは韓国の飲食店や販売店でも同じである。従業員でお

菓子を食べている人もいれば携帯を弄っている人、電話している人、他の従業員と会話している人等日本人からすれば驚くようなことばかりだった。日本では働く際に研修や指導から入るのがほとんどだが韓国はそのような教育があまりないのだと感じた。

４）韓国は交通機関での通話やカフェで大きな声での会話が許されている。

５）韓国人はよく食べ物をシェアする。カフェでも、ひとつのケーキを数人でシェアして食べることがよくあった。

６）韓国ではデリバリーがとても発達していて、日本のデリバリーの主流であるピザだけでなく、チキンやトッポッキ、ジャージャー麺、とんかつやデザートまでデリバリーすることができ、日本よりもデリバリー文化が栄えていると感じた。

７）食文化では、日本では食べ物を残すのは礼儀が悪いとされているが、韓国では残すのは「満足」だという証拠になるためというのもあるのか、どの飲食店も量が異常に多いし現地の人々もほとんどの人が残していたのを感じた。

８）買い物をする時はほとんどクレジット払いが主流だった。

２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

１）たった３週間の研修参加で留学最初の日に比べて韓国人とのコミュニケーションが取れるようになっていたので驚いた。今までも年に２回は韓国旅行に行ったが、短い期間で韓国人との交流も少なくお店の人に話しかけるのも少し怖く気が引けていた。なので、自分から韓国人に自分の意思を伝えられるようになったという事は私にとってとても大きい意味があった。また、韓国語の能力だけでなく、わからない単語があると調べて使えるようになりたいという意欲も上がった。

２）授業中に限らず、道や分からないことを尋ねる際やお店の店員さんに対しても、勇気を出して大きな声ではっきり発言することが大切だと分った。

３）文化の違いに驚く場面がたくさんあったが異文化を理解し尊重できた。また、改めて日本の文化や環境を誇りに思えた。

４）知らない国に行き生活していくことの大変さや、友達と協力することの大切さ、親のありがたみがわかった２１日間だった。

５）今回の海外研修では、学校で学ぶことのみではなく、現地の人々に触れ合い聞き取ろうとする努力や行動力等、自分の自信をつかせることが多く得られた。

オーストラリア　フリンダース大学コース

【実施期間】：2020 年 2 月 7 日～3 月 15 日（38 日間）
【参加学生】：8 名

【教育研究活動の内容】：

フリンダース大学コースの参加学生は、10 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、100 時間の教室内授業及び 12 時間の課外活動に参加した。

事前研修では、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。また、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日に、１対１の面談を含み、Reading、Writing、Listening、Speaking の 4 つのプレスメントテストが行われた。テストの結果で 4 段階のレベルが分けられ、研修者たちは自分のレベルにあった Reading・Writing クラス及び Listing・Communication クラスで受講することになった。教室内授業は 1 コマにつき 2 時間授業であり、座学だけではなく、教室をでて違うクラスの子と交流したり、フリンダース大学の生徒にアンケートをしにいったりとても自由な感じでアクティブな内容だった。なお、授業レベルが自分の実力に合わない時等、先生に相談してクラスを変えてもらうことも可能であった。学生一人一人のレベルに沿った授業実施を最大限に考慮した内容だった。

課外活動は、週末にシティーツアーや CLELAND PARK 見学等が実施された。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

<u>１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：</u>

１）日本と比べると、オーストラリアは学校が終わるのも、夕飯の時間も早い。仕事も夜遅くまで働くことはなく夜 8 時にはほとんどのお店が閉まり、金曜日は午後 5 時にお店が閉まる。何故そんなに速く閉まるのかを尋ねたら家族で過ごす事を大事にしているときいて素敵だなと思った。

２）バスは日本と違い、手を挙げないと止まってくれない。また、停車するバス停や次に停車するバス停等の車内アナウンスが無いため、居眠り厳禁で今どこのあたりなのかしっかり把握しておく必要がある。

３）バスや電車、路面電車は乗る時だけ乗車券をピッとしたら降りるときは何もしなくてよいので便利。

４）水が貴重なので、シャワーの時間は短く、洗濯も週に２回ほどだった。

５）教育の面では、授業内で 10 分間の休憩があり、お菓子やジュースを飲んだり食べたりできて、とても快適だった。休憩を挟む点では日本の授業で

も取り入れるべきだと思う。

6）講義中自由に発言するのが当たり前だったし、それぞれが自由な感じで授業を受けていた。また、コミュニケーションをとりながら、話しながらの授業が多く楽しかった。

7）授業が時間通りに始まることはなく、オーストラリア人はルーズだと感じた。ときたま先生が机に座ったりしていたが、誰も注意することはなかった。いい意味でそういうのが許される国だと感じた。

8）外国人の多いクラスでは当たり前に遅刻する人や面白い発言をする人がいて授業内だけで文化の違いを強く感じることができた。

２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

1）外国人というと少し遠く感じていた。しかし言葉や文化が違うだけで同じ人としてそこまで大きな違いはないと外国を近くに感じることができるようになった。

2）今回の留学経験を通してさらに外国に興味を持つようになった。また、日本にいるときには感じなかった日本の良さを海外から見ることで感じることができた。

3）私はこの研修の前に単語を勉強したり、ネイティブスピーカーが話す動画を見て少し勉強してこの研修に臨んだので、聴きとるのには全然わからないということはなかった。しかし、スピーキングが全然できなくて、他の外国から来た留学生と比べると大きな差があった。日本人はリーディン、ライティングは得意だけど、スピーキングができないとよく耳にするが、こういうことなんだなと実感した。この経験を糧に、これからの生活では、毎日 10 分でもシャドーイングをしたり、TOEIC を受けたりして英語力を高めていきたい。

4）今まで、海外に旅行として行ったことがあったが、今回の研修日数のように長くの滞在はしていなかったため、旅行だけでは感じることのできない外国での価値観や文化を多く学ぶことができた。

カナダ　リジャイナ大学コース

【実施期間】：2020 年 2 月 29 日～2020 年 3 月 20 日（21 日間）
【参加学生】：3 名

【教育研究活動の内容】：

リジャイナ大学コースの参加学生は、10 時間の事前研修を受けた後に派遣された。現地では、81 時間の教室内授業及びの課外活動に参加して帰国した後、1 時間半の事後研修を受けた。

事前研修では、全体的な説明や研修先大学の紹介をはじめ、講師が海外留学における危機管理及び海外での健康管理について詳細に説明した。また、昨年度に本コースに参加した先輩学生が現地での生活、勉学についてアドバイスをしてくれた。

現地授業は、コロナウィルスの影響でクラス分けをせず全員同じ授業を受けることになった。教室内授業は、平日の午前中は英語の基礎（文法や単語）、午後はカナダの歴史や文化という構成であった。英語の基礎授業はテキストを中心に進めたが、歴史文化の授業ではクラスメイト間が話し合ったり協力しあったりして活動することが多かった。また、ほぼ毎日宿題が課せられ、その内容は日記や次の授業で行うプリントの予習等であった。研修の最後に、研修の集大成であるファイナルプレゼンテーションがあった。研修参加者がカナダについて自分で調べたいことを決め、それぞれ 3 分間のスピーチを行った。なお、コロナウィルスの影響で第 3 週目からオンライン授業になり、このプレゼンもオンラインで行った。

課外活動は、午後の授業後や土曜日に様々な施設見学や文化体験が計画されたが、コロナウィルスの影響で第 2 週土曜日から課外活動が実施できなかった。

【教育研究活動の成果①】：**――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理**

<u>１．参加学生は教育面、生活面等において日本と現地の違いを認識し、異文化比較ができた：</u>

１）授業では先生たちから日本人は反応が薄いと何度も言われた。もっと積極的に授業に取り組むことが大事だった。英語圏ならではだと思うが、問題を答えた後に必ず褒めるような相槌をうってくれた。とても感情が見える教育や指導だと感じた。

２）服装は人種や国によって違い、レギンスだけだったりタンクトップだけだったり、ターバンを巻いていたりかなり自由なスタイルだった。色んな人種の人がいるので互いが互いを尊敬しているんだなと感じた。多人種多国籍での文化は日本にあまりないので、とても違いを感じた。

２．参加学生は新しい目線で物事を考えたり、言語力を高めたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

１）帰国後の今、単語がどれだけ大切かということを実感したので、単語を勉強し、大学生のうちにTOEIC 600点取得という目標ができた。本当に英語が大嫌いだったので、こんな目標ができたことは自分でも驚きである。経験をすることで得るものがたくさんあることを改めて知れたので、これからもいろいろなものに挑戦しようと思う。コロナの影響で大変なことはたくさんあったが、問題の解決力等も向上できたと思うので、この研修に参加でき、自分を成長させることができた。

２）この研修で海外のよさ、日本の良さのどちらもを改めて知ることができ、世界を広い視野でみることができた。

【教育研究活動の成果②】：コロナウィルス感染症に大きく影響された研修。だからこそ見えたもの、得たものがある

――事後研修会での報告内容より抜粋、整理

１．コロナウィルスの影響が拡大してから現地環境の変化、現地の政策及び人々の考え方等について日本と比較できた：

１）参加者が見たコロナウィルスの影響が拡大する前後の現地の様子等

3人が2/29（土）に日本を出発し、当日深夜、現地に到着した。出発時、日本では、すでにコロナウィルスの感染リスクや防疫対策が宣伝され、認識されていたため、3人も、マスクを着用して必要のない接触を避けながら渡航した。しかし、現地についたら、コロナウィルスがカナダと関係のないものだという感じで、現地の人々は防疫対策を殆どしていなかった。その認識の差にまず驚きながら、これでよいかという不安も覚えた。

一方、3/13（金）、トルド首相夫人の感染が報道されてから現地の雰囲気がガラッと変わり、いきなり厳しい自粛ムードに入った。特にトルド首相がテレビで国境封鎖を発表してからは、殆どの外出ができなくなった。カナダ政府の意思決定のスピード及び民衆が速やかにそれに忠実に従う様子から、政府のリーダシップの強さを感じた。

なお、カナダの厳重な防疫体制に慣れてから、3/20（金）に日本に帰国した際に目にしたのは、3週間前の出国時とほぼ全く同じ様子の対策だった。カナダと比べ、日本の防疫体制が緩かったのでこれでよいかとまた驚きと不安を感じた。

同じ重要課題に対して両国政府及び民衆の認識、対応の違いを強く認識した出来事だった。

２）リジャイナ大学の対策

3/13（金）に首相夫人の感染が報道されると、翌日の 3/14（土）に、リジャイナ大学が月曜日からの授業停止及び火曜日からのオンライン授

業実施を発表した。さらに、3/16（月）にオンライン授業実施の詳細が周知され、3/17（火）にオンライン授業が正式に、そして問題なく開始できた。ここもリジャイナ大学の意思決定及び実施の速さに感心した。

３）現地の人々（主に HS 先）の防疫対策

防疫体制に入ってからは現地の住民たちが自粛指示に従い、殆ど外出しなくなった。しかし、マスク着用及び手の消毒はあまり徹底されていなかった。日本の防疫対策とは大きな違いがあった。これはコロナウィルスの、両国での影響の差が表れたのものではないかと思った。

４）アジア人への差別

コロナウィルスのせいでアジア人への差別が報道されたため、心配もしたが、現地滞在中、差別を受けることがなかった。逆に、「いい一日にしてね、カナダ満喫してね、差別に気を付けてね」等といった言葉をかけてくれる人がいた。カナダ人の優しさを感じた。

しかし、帰国時のカナダの空港では差別に遭った。意味不明の罵声が浴びられ、つばを吐くふりを見せつけられた。なお、この時も、この差別行動を制止してくれた現地の方がいた。

２．異例の状況の中での研修参加。そこから得たものがたくさんあった：

１）今回はとても大変な時期での研修参加になったが、これを機に人種差別や感染症についてさらに考えるようになった。特に国によって考え方や対処法が全く異なるため、その文化や思考の違いをとても学んだ。これはとてもポジティブなことで、ただ単に目に見える国の違いだけではなく思考や物のとらえ方について直接触れることができた。いろいろ経験して最初はショックが大きかったがそれを乗り越えて自分の視野・考え方が広まったと感じた。

２）たくさんのハプニングがあったが、どれも記憶に強く残るものばかりであった。特に最後の１週間にコロナウィルスについて現地では強い危機感があり、周りからも大きなプレッシャーがあったのに、日本での見方が全然違った。自分たちがこの認識の違い及び自分が置かれている状況をどう関係者に理解させるか、自分たちの力でどう対応していくのかについて本当に苦労した。その結果、思考力と問題の解決力が鍛えられ、向上できた。